

公表

## 事業所における自己評価総括表（2025/12）

○事業所名	たすきっず			
○保護者評価実施期間	2025 年 11 月 26 日 ～ 2025 年 12 月 7 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数)	27
○従業者評価実施期間	2025 年 11 月 26 日 ～ 2025 年 12 月 7 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 12 月 26 日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	将来の選択肢を広げる支援や療育の実施	・毎月プログラムカレンダーを作成し、毎日違った療育内容を実施している。固定化している療育内容も一部あるが、取組の「目的」や「ねらい」を変えて実施しており、同一プログラム名でも異なった取組を行っている。机上ではない実体験での学びを大切に、将来に向けた経験値の積み重ねを日々行っている。	・主の活動は集団活動としており、個人に対しては、個別学習時間にて対応している。今後は、集団活動の中でも、より個人の目標に着目し、集団活動時でも個人の「ねらい」をしっかりと職員間で情報共有し、実施できる様に連携を高めていく。
2	社会資源を活用し、 地域との協同し合える関係性の構築	・地域の洋食レストランや区のスポーツセンター、カヌー体験、公共交通機関など様々な場所を活用し、生活の幅を広げる取り組みを行なっている。関係者間では「顔の見える関係」が形成され、区のスポーツセンターからは、ゲストプレイヤーとして招待されることもあった。	・互いにWin-Winの関係性を維持していく為にも、利用させて頂くことが当たり前だと思わず、感謝の気持ちを忘れずに取組を行っている。又、新たな関わり場を探し、当方より積極的なコミュニケーションや新規開拓を図っていく。
3	職員一人ひとりが支援や療育に全力で向き合っている	・職員一人ひとりがしっかりとお子様の成長を考えた理念に基づく療育を考えており、情報共有しながら支援にあたっている。「療育支援は、一人では行えない。情報を一人で抱え込んでも価値がない」を基にチーム全体で協力しながら、お子様の成長を考えた支援を職員一同で行なっている。	・日々PDCAサイクルを回しながら、日々の向上心を持って支援を振り返っており、Good より Better。 Better より Best を目指している。職員のスキルアップを図る為、研修の機会はもとより、今後は、動画研修も取り組む予定となっている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向け研修の機会/父母の交流の機会の促進	・ご家族参加型のイベントの実施（兄弟姉妹参加も可能）は行えているが、父母会自体は発足していない。又、3月に茶話会を実施した。イベント内で交流できる様に工夫は行なっているが、事業所での勉強会実施には至っていない。	・イベント時での交流は継続していきながら、新たに勉強会の機会も作っていく必要がある。事業所単体では講師の方への依頼も難しい為、複数の事業所に協力依頼を行いながら、実りある研修の機会を作っていく。
2	防災訓練や各種マニュアルの周知	・防災訓練や防災用品及び備蓄品の購入、各種マニュアルの整備は行なっているものの、周知が出来ていない事を考慮すると、情報発信力が弱く、周知徹底まで至っていないと思われる。周知の仕方を再度検討していく必要がある。	・防災訓練の実施については、ホームページにて訓練実施のブログ作成や取組内容を明示し、実施内容を分かりやすく記していく。又、各種マニュアルの周知についてもホームページへの記載を基本として、連絡アプリ内でも確認が取れるように、簡素化した内容（要約したもの）のものを新たに作成し、表示していく。
3	地域の他の子どもとの交流	・外出活動時に地域の他の子どもとの交流の機会はあるが、地域の子供たちとの交流を主とした取組の実施は行えていない。地域に開かれた運営をしていきながら、交流の場を創設していく必要がある。	・引き続き、外出活動先での自然な関りを行なっていきながらも、更なる地域への理解促進を促していく為、社会資源の活用や事業所発信のイベントを企画し、実施できるように各機関との連携を深めていく。